

——多摩地域の振興に注力している背景や、地域の特性・課題についてお聞かせください。

多摩地域は東京都の面積の2分の1を占め、東京都の3分の1に相当する約400万人を超える人口を擁しています。豊かな自然や良質な住環境、産業、歴史、文化、グルメなど、多様な地域資源を持つ魅力あふれる地域です。一方で、人口減少や少子高齢化への対応、道路・インフラ整備、防災対策、産業振興などさまざまな課題もあります。そのため、それぞれの地域資源を生かしていつそうの振興を図っていくことが必要になってきます。

——「多摩の魅力発信プロジェクト」について解説していただけますか。

多摩地域の魅力を多くの人に知ってもらい、主に関係人口や交流人口の増加を図ることを目的に実施しています。これまで、多摩地域の自然や歴史、文化、食などについてさまざまなツールを用いて発信しています。



多摩の魅力発信プロジェクト マスコットキャラクター 「たまらんにゃ〜」



ます。2025年度は、新たに「大学生を対象とした市町村事業のPR」を開始しました。この事業は地域特有の課題を解決し、さらなる多摩の魅力創出につながる市町村の先進的・特徴的な取り組みを都内の大学生が視察、市町村の担当者との意見交換を実施する内容です。

多摩地域の魅力 第1回

を大学生が体感



東京都(多摩の魅力発信プロジェクト)

東京都

子どもたちに「市の魅力」の取材・発信を託す

東久留米市

東久留米市は「東久留米まちっこ広報部員事業」として、市内在住・在学の小学生から高校生が同市の魅力を発見・取材し、市の広報紙や公式SNSで発信する事業を開始した。取り組みを始めた理由を、富田竜馬市長はこう説明する。
「市外での東久留米市の認知度は低く、魅力を伝えきれないことが大きな課題でした。そこで、職員とは異なる視点を持つ子どもたちの意見を取り入れたいと考えました」

7月下旬に開催された第1回のワークショップでは約2時間にわたって話し合いが熱心に行われ、自由な発想に基づいたアイデアが次々に出された。このワークショップを見学した大学生は、事前に東京都で唯一「平成の名水百選」に選ばれている南沢湧水群や、約2000本の孟宗竹が生い茂る竹林公園を見学し、同市の魅力を体感した。そのうえで、発信方法について市長や職員と意見交換を行った。
「大学生の声を直接聞ける機会はありませんので新鮮でした。広報に興味がある学生ということもあり、積極的に率直な意見を出してくれました。非常に参考になりました。こうした率直な声を参考に、今後も『東久留米まちっこ広報部員事業』を広げていきたいです」(市担当者)



東久留米市役所 東久留米まちっこ広報部

——プロジェクトの特徴を説明していただけますか。

今回の市町村事業PRでは、まちづくりや福祉、農林、観光など幅広い分野の事例を取り上げています。例えば複数の機能を持った新施設での介護や子育て支援、子どもの目線を取り入れた活動、交流の場の創出などです。それぞれの自治体で、このような創意工夫を凝らした施策が推進されています。こうした取り組みに焦点を当て、その発信を都と市町村が連携して行うことで注目や関心を高めていきます。

——大学生による各市町村の取り組みの視察を通じて、どんな効果が生まれると期待しているのでしょうか。

多摩地域には多くの大学があり、市町村と包括連携協定を締結したり、時間をかけて共に事業をつくり上げたりしているケースもあります。本事業は大学の枠にとどまらず、直接大学生に市町村の取り組みを知っていただくことで、より多くのアプローチで地域を身近に感じ、理解を深めていただくことができると思っています。そしてその場で感じた思いを職員と意見交換することで、新たな視点を

行政や大学生自身が得られると感じています。市町村事業のPRラッシュアップだけでなく、学生と地域とのさらなる連携のきっかけを生み出していきたいです。

——本事業を含め、東京都として多摩地域に対してどのようなビジョンをお持ちですか。

東京都の長期戦略である「2050東京戦略」において、多摩地域の2050年代のビジョンとして、「地域の魅力に溢れ快適で充実した暮らしを叶える、行きたい・住みたい多摩」を掲げています。多摩地域の豊かな個性と魅力を磨き上げ、地域愛にあふれ、にぎわいのある、人々を魅了する「多摩」を将来に引き継いでいくため、幅広い分野でハード・ソフトの施策を実行していきます。

多摩地域の魅力

広大な自然、良質な住環境、特色のある産業——。東京都の面積の約半分を占め、3分の1相当の人口を擁し、30市町村からなる多摩地域にはさまざまな魅力がある。今回は東京都が実施する「多摩の魅力発信プロジェクト」について東京都の担当者に話を聞くとともに、市町村の先進的・特徴的な事業と、実際に大学生が視察した様子を紹介する。制作/東洋経済企画広告制作チーム

在宅医療・介護を支える新たな複合施設

三鷹市

2023年12月に開設した「三鷹市福祉Laboどんぐり山」は、研究・介護人材の育成・生活のリハビリという3つの機能を備えた在宅医療・介護を支える複合施設だ。

「医療・介護分野の課題解決に向けて、人材育成や自立支援に加え、企業や大学などが行う研究を支援しながら新たな仕組みや技術を生み出し、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる社会の実現を目指しています」と市の担当者は話す。

施設では、一部をオフィスとして貸し出し、研究や介護保険事業の展開を支援している。また、ケアマネジャーなどを経験した職員が地域の特性に応じた研修を開催するなど多様なニーズに応えつつ、研究や人材育成の成果を市民や福祉事業所に共有し、地域へ還元している。さらに生活のリハビリでは、居室を「自宅に近い環境」に整え、利用者やその家族が宿泊しながら在宅生活の継続に向けたトレーニングに取り組んでいる。

同施設の視察と意見交換会に参加した大学生にとって、一連の取り組みは新たな発見につながったようだ。「介護職の仕事は大変で、感謝はされる一方で成長を感じにくい」と思っていました。ですが、今回の視察を通じて自立を支援するやりがいのある仕事だとわかり、以前よりも明るいイメージに変わりました」(大学生)。



社会福祉法人三鷹市社会福祉事業団 三鷹市福祉Laboどんぐり山